

自分の生き方について考え、道徳的価値を主体的に考える指導の工夫 - 伝え合う活動から自他の思考を可視化する活動を通して -

特別研修員 道徳 白石 淳 (中学校教諭)

生徒の実態

- 自分の考えに自信が持てない。
- 自分の考えに固執してしまう。

教師の願い

- 自分の考えに自信を持って発言してほしい。
- 友達の考えを聞いて自分の考えを広げてほしい。

伝え合う活動

主発問

父が私に伝えたかったことは？

授業実践「木箱の中の鉛筆たち」
(出典:あかつき出版) くじけない心
A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志

1 自分の考えを付箋紙に書く



付箋紙は見やすいな。

2 付箋紙を貼る(自分の考えを発表・友達の考えを聞く)



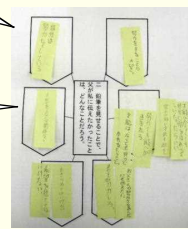
自分はこう思う。
理由は…。

班のウェビングマップ

今からでも遅くない

諦めないこと

同じ考えがあるんだね。



3 自他の考えを個人のワークシートにメモ



この考えは参考になるな。

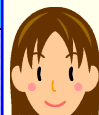
4 全体に向けて発表



この考えをみんなに聞いてほしい。

個人 → 班 → 全体

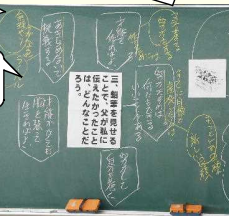
個人のウェビングマップ



才能を作ること

努力すること

いろいろな考えがあるんだね。



5 マップの付け足し

具体的に？

補助発問

諦めそうになった時、何が大切？



今後は強い気持ちで目標達成に向けてがんばろう。

具体的にこうしていけばいいんだ。

多様な価値観に触れる
自他の思考の可視化

思考の広がり 価値の深まり

成果

- 「伝え合う活動」の中で、班のウェビングマップ上の付箋紙を基に、自他の考えを個人のワークシートにメモすることで、多様な価値観を可視化するのに効果的であった。
- 補助発問をして、さらにマップを付け足していったことで、思考の広がりや可視化でき、道徳的価値を深め、今後の生活につながる意欲を持つことができた。

課題

- 「伝え合う活動」をより充実させるために、伝え合う時間をより多く確保できるように効率的な進め方を考える必要がある。
- 生徒の意見に対して適切な補助発問を用意しておくことが、自分に置き換えて考えさせたり道徳的価値を深めさせたりできるとつながる。